

(2)都市基盤分科会

総論提言シート 「安心・安全・心の通う街「川越」」

(1)将来かわごえ像	安心・安全・心の通う街「川越」
------------	-----------------

理由

公共サービスを受ける側の市民と提供側の行政との息の合ったテンポを期待するには、「ハイスピード・ハイクオリティ」も今後必要となってくる。そのためには、インフラ整備と防災対策への徹底した取り組みは欠かせない。いかに市民の生活レベルとテンポに合わせたサービスを提供できるかの施策として、都市基盤の「目に見える整備・目に見えないものの整備」を柱としたい。

(2)かわごえの現状

良い所

×悪い所

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

川越市全域公園化計画（重要）（生活者に必要なすべての観点から）

川越駅西口再開発事業の一環として、医療・行政サービス中心施設の移転と設置

上記個所へのヘリポート設置と、大型駐車場（地下）の開発

自治体コールセンターの設置による行政サービスの拡大と簡略化

道路計画と区画整理事業の見直し

市内循環交通機能の充実と、近隣市町村との広域発展計画の取り組み

地産地消を目指した「完全無農薬栽培」に基づく農業地域の活性化と増進

自家発電機能の充実

総論提言シート 「防災都市づくりの伝統を受け継ぎ、自然・環境と共生できる安全・快適で、共に幸せに暮らせる成熟したまち」

(1)将来かわごえ像	防災都市づくりの伝統を受け継ぎ、自然・環境と共生できる安全・快適で、共に幸せに暮らせる成熟したまち
------------	---

理由

川越の蔵造りの町並みは、市民自らが江戸文化を継承しながら防災都市づくりを行った歴史的・文化的・都市計画的遺産として高く評価されるべきものである。

文化遺産に示された市民を主体とした「安心・安全・信頼」と時の鐘をシンボルとした調和の取れたまちづくりの手法は、私たちが目指すべき成熟し、持続可能な自然・環境との共生を軸にしたまちづくりの手本ともいえる内容を持ったものである。

川越市には、この伝統・手法と市民主体の精神を活かし、資源・エネルギー循環が可能な「新しい21世紀型防災都市づくり」を行える基盤と再開発地区や活用可能な用地・施設等が各地域に十分残されている。

川越市は伝統・精神を継承し、都市の基本である安全性を中心に首都圏での都市相互のネットワーク化を図り、市民は勿論、広く都市相互の関係においても、共に安心・快適で互いに信頼し合える、幸せで成熟したまちづくりとその連携を促進すべきである。

(2)かわごえの現状

良い所

- ・「時の鐘」をシンボルとした防災都市づくりの歴史的・文化的・都市計画的遺産が受け継がれている。
- ・川越駅西口周辺等新しい都市づくりに向けたシンボルや施設、それらを支えるシステムを企画・建設・整備できる可能性がある。
- ・周辺の農地を含め、自然・環境に恵まれており、21世紀の都市が目指すべき自然・環境との共生を軸とした「資源・エネルギー循環型のまちづくり」が可能である。

×悪い所

- ・歴史的文化遺産が単なる観光資源として扱われており、防災都市づくりの精神や都市計画的手法に対する理解・認識が欠けており、正当な評価がされていない。
- ・中心市街地活性化計画及び地域防災計画にしっかりした骨格がなく、関連性も見られない。

- ・歴史的街区と交通体系のあり方、道路交通施設及び情報管理に関する分析検討が不十分である。
- ・自然エネルギー、廃棄物等を資源・エネルギーとして活用する認識、組織的ネットワークづくりなどの研究・検討がなされていない。

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

伝統的建造物群保存地区及び景観形成地区の保全整備を行う。

道路交通・施設・情報体系を見直し、抜本的で迅速な改革・改善を行う。

市全域に適正な規模・内容の市民の憩いの場となる防災公園、緑地及び施設を整備する

自主防災組織の充実を図り、各地域・地区ごとにきめ細かな防災地図づくりとそれに基づく避難経路を整備する。

川越駅西口に首都圏防災情報管理・ネットワーク施設を核とした行政・産業・文化・医療・情報総合センターと川越の新しい「顔」となるセントラルパーク（防災・憩いの森公園・地下駐車場・ヘリポート・施設等含む）を建設整備する。

指定防災施設（学校、病院、公園、公共施設及び大型店舗等の施設）を設け、自立型インフラ（上・中・下水、電気、ガス、通信等）を整備する（予算化）。

中心市街地を含む商業地域は、高度情報管理システム機能を備えた形で整備し、活性化を図る。

市全域でそれぞれの地域・地区の特性を活かした景観の整備を行う。

各分野における情報インフラの整備とその安全な管理体制を構築する。

24時間型行政・医療・福祉・介護等の情報・サービス施設とそのネットワークシステムを整備する。

市民・行政が協働するための情報・知識を共有し、常時問題を協議できるシステム・機関（市民会議）を創設する。

都市基盤整備を中心に、計画の優先順位や迅速な達成などを監視・評価する独立した「市民評価協議会」を設ける。

住民を主体とする地域計画づくりを行うシステム（地域市民協議会）を設置する。

ごみの分別・減量・資源化を図り、バイオマス活用等の資源・エネルギー循環型地域社会を構築する。

総論提言シート 「人にやさしい、やすらぎとうるおいのあるまち」

(1)将来かわごえ像	人にやさしい、やすらぎとうるおいのあるまち
------------	-----------------------

理由

歴史と伝統のある街川越に依存しすぎ。観光の街川越としては全国的に有名（成功例として）になったが、他分野で行政の立ち遅れが目立つ。人にやさしい、安全で安心して住めるうるおいのある街にするため。

1 安全で

交通

- ・市街地の慢性的な交通渋滞
- ・弱者に不親切な道路交通行政

防犯

- ・県の防犯重点指定市になる（H16.5.19）

災害

- ・火災、水害、地震等万一の場合の対応

2 うるおいのある

- ・緑と自然を生かしたまち
- ・地域の特性を生かしたまち

(2)かわごえの現状

良い所

- ・優れた歴史的な資産の保全と文化と伝統が保護されている。
- ・景観に配慮したまちづくりが進められており、観光都市としての成果を挙げている。
- ・自然に恵まれた環境が残されており（林、緑、水辺）、今後の活用が可能。

×悪い所

- ・観光に依存し、他の政策が立ち遅れている。
- ・城下町の宿命でもあるが、道路が入り組んでおり、道幅が狭い。
- ・市街地は慢性的な渋滞を起こしている。
- ・発展に道路、交通、行政がついていけず、立ち遅れている。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

三線（JR、東武、西武）合同の新駅をつくり、新しい文化の創造を図る（重要）。

三駅周辺とクリアモール、鏡山跡、織物市場跡と蔵造りの街との有機的な連携（重要）。

地域特性を活かした街並み。すっきりした景観の街並み。

弱者にやさしい交通行政と中心市街地の慢性的な渋滞の緩和（重要）。

川越ブランド（サツマイモ以外）の農産物の開発育成と地産地消の促進。

緑地の活用を図り、水と緑の多い公園を増やし、うるおいのあるまちに

資源及びエネルギーの循環型社会に対応

IT技術を駆使し、市民の多様なニーズへの対応と、災害及び非常時に対応できるネットワークとシステムの構築（重要）。

総論提言シート 「みんなが平等で、安心して暮らせて、幸福と活力を追求できる、みどり豊かで歴史あるまち」

(1) 将来かわごえ像	みんなが平等で、安心して暮らせて、幸福と活力を追求できる、みどり豊かで歴史あるまち
-------------	---

理由

- 1 多くの市民にとって、表記のことが最も大事なことだと思います。また、市は市民第一と考え行政すべきであります。
- 2 市民一人ひとりの主義、主張、生き方等がそれぞれに違います。川越市の現状を考え、自薦した委員の立場から表記のテーマとしました。
- 3 市民はすべて平等であるはずだが、高階砂地区に住んでいると平等だとは残念ながら思えない（近所の複数の人に聞いてみたが殆ど私と同意見でした）。

主なもの

約5万2千人の人口があるのに、主な公共施設が殆どない。主な公共施設は市の北に片寄っており、又、駅からも遠く大変不便である。

市全体から見で、市役所を川越駅から徒歩で行ける場所へ移転させることを考える時期にきている（多くの市民に無駄をさせている）。

東上線新河岸駅付近の開発整備が計画されて35年以上が経つが、まったく形になっていない。これから先の予定も分からないとのことでした。また、同駅東口の開設の話は40年前からあるが、いつ開設されるかまったく分からない。こんな所はない。

東京等に通勤している市民が大勢いる。その市民に対する支援がまったく見えてこない。支援する専門のセクションを作っても良いのではないか。

市内には、緊急車両がスムーズに入れないところがある。

(2) かわごえの現状

良い所

- ・ 市政について気にしない限り日常生活に大きな支障もなく生活できている（他の市町村に住んだことがないので比較できない）。
- ・ 比較的緑が多い。
- ・ 比較的他県・市の人から知られている（さつまいもと歴史のまち）。

× 悪い所

- ・ 市外通勤者へのサービスが具体的に見えてこない。
- ・ 市役所等の公共施設が鉄道の駅より遠く不便。

- ・市役所内が暗い。きれいとはいえない。整理整頓が良くない（ISO14001事業所に甘んじているのではないか）。
- ・市職員の勤務態度が決して良いとはいえない。また、対応も良くない。仕事の効率も良くはならない。
- ・役所はたらい回しが多い（市民側にも問題はありますが、市職員側にも問題はある）。

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

市政に関するすべてのことをすべての市民が理解できる形にして公開する。

期毎に事業計画に基づき業務監査を行い結果を公開する。

市職員の資質と意識の向上を高めるため、教育・訓練を実施する。これにより仕事の効率と市民へのサービス向上ができる。

人事制度に信賞必罰を多く取り入れる。

市として持っている資産を有効に活用する。

総論提言シート 「自然、歴史、産業の環境が調和した、安全で安心な心豊かな絆で結ばれた共生のコミュニティーのまち」

(1) 将来かわごえ像	自然、歴史、産業の環境が調和した、安全で安心な心豊かな絆で結ばれた共生のコミュニティーのまち
-------------	--

理由

戦後60年間の物質や機能のみ追い求める社会構造から、平成の根本からの社会構想改革により、成熟した社会環境形成に移行して、人間が人としてあるべき姿で、最も大切な、豊かな心と心、心豊かな絆で結ばれた共生の地域社会形成のまちづくりを推進。すべての市民がその地域社会でライフスタイル（個性・信条・自由）が最大限尊重され、平等、公平で相互の交流を通して絆を深めて、その地域で一生の生活を送れたことを誇らしく思うまちづくりの推進。

(2) かわごえの現状

良い所

- ・ 歴史的文化財、歴史的街並みの保存に関する施策。
- ・ 中核都市としての包括的施策。
- ・ 商業地域の良い環境が保たれている（風俗の規制）

× 悪い所

- ・ 近い将来の少子化、高齢化時代の抜本的施策の遅れ
- ・ 社会構造環境の変革に合わせた、抜本的行財政改革の遅れ（保守的、縦割り行政）
- ・ 地域社会の弱者の目線に立った日常生活での心ある細やかな地域住民との協働による行政サービスの不足（市職員の現場主義の徹底不足）。
- ・ 時代（税収の半減）を見越した、すべての事業（ハコものや大きな費用が係る）について上位の行政の判断にとらわれ、自立な判断が不足。
- ・ 行政業務の合理化、効率化、一元化が遅れ。
- ・ まちづくりで一番大切な防災を考えたまちづくり施策の不備。

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

地域で暮らす日常生活（介護・健康・いきがい・子育て・保育・児童保育・青少年育成・防犯・防災・道路・水路・河川・公園・遊園地・生涯学習・体験学習・環境・ごみ・スポーツ・行事等その他）に関することは、市内を21地区に分けて小行政的自治区による地域住民と行政の

協働によるコミュニティーづくりを推進する（地域住民による地域住民のためのまちづくり）。

社会環境の変革に合わせ、規制の緩和、撤廃、民間委譲、市役所内と市役所関係機関の合理化、ITによる効率化等含む行財政改革で大綱と生命に関わる業務のみ行う、高度で機能的な小さな市役所にして、地域住民の生活環境整備に関するまちづくりは、地域住民の自主的活動に委譲することで、個性と工夫をこらした魅力ある地域社会の形成を図る。

市民と学識者による行財政改革提言委員会をつくる（行政機構のあり方による見直し、生産人口減による税収の半減と高齢化社会による社会保障費の増大）

市民と専門者や学識者による第二次総合計画、実施計画の見直し委員会をつくる。

NPO法人創設経験者と行政による、市民活動を支援するNPO法人創設の推進委員会をつくる。

高齢化時代の財政バランスシートを出来る限り良好に保つためには、高齢者が健康で出来る限り長く働いていただくことが肝要であり、そのためには行政と民間で雇用創出し、出来るだけ多くの高齢者に働いていただけるように、社会雇用環境の整備を推進する。

将来（2025年以後）の人口構成（就業生産人口）を考えた少子化対策の施策の策定と実行（出産年齢20～40歳の就業者の労働時間の短縮（高齢者の雇用促進）や出産を促進する雇用条件整備と地域子育て支援の環境の整備）

情報化時代に合わせた市役所関係業務の行財政改革と合わせて、全庁管理システム構築を図り合理化、効率化、一元化と市民との情報の共有化の推進を図る。

防災に強いまちづくりを地域住民参加で計画的に進めるため、多くの市民に災害の体験、救出体験、体験談を聞いていただき、いつ起こるか分からない災害に対する危機感をもっていただくために市内に防災体験センターを整備する（地域住民による災害に備えたまちづくりと地域住民による災害時の救出活動や災害後の復旧円滑化を図る）。

生産人口と子供たちが多い活力のあるまちにするため、開発研究形の新産業立地の誘導を推進して、現在の川越市民（居住）の東京都民（勤務地）を居住、勤務地とも川越市民となるよう施策を推進、生産人口者の転入も推進を図る。

成長期の「大量生産・大量消費・大量廃棄」の社会環境から「持続可能な簡素で質を重視する」社会への転換、循環型社会の構築・環境整備を地域共生の地域社会づくりで推進する。

基本教育は基礎能力と基礎体力を人間形成において人生社会循環型生

涯学習、体験学習を地域社会づくりで推進する。

市の周辺の農地（三富地区、畑、平地林、入間川隣接水田地区）を活用した農業の体験（土、植物、動物とのふれあい）と地域住民参加の協働農業の推進。商業と農業の交流を深め、相互協働支援による自然環境活用と保全、健康で快適な生活空間を考えた地域の特性を生かした、商農一体かつ総合的な商住環境に恵まれた、市民による地域住民のためのまちづくりを行う（地域環境券の発行）。

市全体面積に対する市街地と農地面積のバランスがよく、地域の農産物を地域で消費する合理的な地域内の食料循環型システムを推進する。

(1)将来かわごえ像	緑あふれ、歴史的遺産を継承する人にやさしい街
------------	------------------------

理由

街の中心部には、古き良き歴史的な遺産が多数現存する街にあり、都市化の波はバブルと共に日々増幅して押し寄せ、“歴史の街”の様相はこの法整備の立ち遅れにより様変わりしてまいりました。また、街周辺地域におきましても、治水や道路整備など公共事業の立ち遅れ、町並みとしての企画立案の不足等により、昔ながらの住みずらい街のままとなっていることも見逃せない事実であります。これらの両面から総合的に、川越市全体の人達が安全で安心して暮らせる街を計画して行く必要があると思われれます。

(2)かわごえの現状

良い所

- ・歴史的遺産が多数現存する点
- ・文化財として多数の建物が現存する点
- ・郊外に緑が多い点

×悪い所

- ・治水事業が立ち遅れている点。
- ・道路整備、公共事業が立ち遅れている。
- ・歴史的遺産の街なのに、また、景観を重視する条例までであるのに、高層マンションの建設計画に次々に許可を出し、何の法整備も検討せずに街の景観の悪化を野放しにしている点。
- ・市や県で発注している建物が川越の都市景観を著しく壊している。都市景観を提唱する街にあってはならない行政の体質又は機構を改善しなければ近未来の川越の都市景観は語れないと思う。
- ・川越らしさ、川越ならではの大胆な企画が見当たらない。同じお金をかけるのならもっと知恵のある企画をしてほしい。税金の無駄遣い！

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

- 公共建物の建設委員会（都市景観の観点から）の設立
- 市役所や公共建物の駐車場の緑化推進
- 街路樹を主要道路の歩道工事のときに計画する
- 公共建物の屋上の緑化推進

弱者（子供、老人、ハンディキャップのある人たち）にやさしい街施設の推進充実

総論提言シート 「緑豊かな生活基盤と活気溢れる社会基盤の形成の中で、都市と自然が共存出来る安全なまち」

(1)将来かわごえ像	緑豊かな生活基盤と活気溢れる社会基盤の形成の中で、都市と自然が共存出来る安全なまち
------------	---

理由

本市は、都心部より30km圏に位置し、交通の便も良く県西部の拠点都市として産業経済の発展に大きく寄与してきた。一時的ではあるが都市開発が未整備のまま住宅供給が進んできた。いわゆる乱開発である。今この時開発を促進する区域と抑制する区域を厳格にし、地区単位の特徴ある街づくりを地区計画に反映する必要がある。一方郊外の緑地については、市民の憩いの場となる公園をはじめとして緑地保全を図る必要がある。

また、工業商業地域を重点的に新都市型地域として構築するため、多くの企業・商業などの誘致を図る必要がある。

(2)かわごえの現状

良い所

- ・市街化区域の農地は、生産緑地として確保されてきた。
- ・歴史と文化の伝統ある旧市街地の景観がある。
- ・緑地が市の面積の中で53%が農地、山林、その他の自然地である。
- ・道路整備の進む中で沿道型商業が急開発されてきた。

×悪い所

- ・城下町特有の狭く入り組んだ細い道が市街地に多い。
- ・工業・商業の誘致の効果が少ないのではないかと。人口流動、労働人口の増加を図り、活性化を促進するため。
- ・若年層に魅力ある新都市像・まちなみが少ない。ぶらり川越がない。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

地区計画による、地域の協議協定による特色あるまちなみづくり。
文化と歴史と伝統のある旧市街地商店街の活性化を図る。

新都市型商業地域を策定し構想商業インテリジェントビルなどの誘致を図る。

3駅合同による市の顔となるシンボルエリアを構築。
まちなみと生活基盤の共存できる道路の整備を図る。

(1) 将来かわごえ像	歴史的遺産と自然環境と人が共生するまち
-------------	---------------------

理由

歴史的な建物は原則として保存し、現代社会での利用価値を考え、まち全体の計画の中で活かして行く。郊外での自然は残し、施設等は出来るだけまとめて、市民が無駄なく利用できるようにする。街中を市民がもっと歩き、人の往来の中でコミュニケーションを楽しめるように歩道の充実を図る。

(2) かわごえの現状

良い所

- ・ 歴史的建物の保存
- ・ 共同溝に拘わらず出来ることからの電線の地中化
- ・ 鏡山・織物市場など市が購入
- ・ 政令指定都市でなく中核市の選択
- ・ 大学とのサテライト講座の実施

× 悪い所

- ・ まつり会館・保健所など市の建物のセンスの無さ
- ・ 無意味に分散された市民の利用施設（市役所・保健所・消防署等）
- ・ 観光案内など表示板の一貫性のなさ
- ・ 形だけの目安箱

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

高齢者を活かすための新しい職場をつくる。

歩道のバリアフリーを実現し、人の往来を活性化する。

道路は原則 6 m にする。

利用していない施設をボランティアで修理してリカレントの場を増やす。

市の施設運営を民間に委託することで利用しやすくする。

総論提言シート 「人と環境が奏でる新しい文化を創造するまち」

(1) 将来かわごえ像	人と環境が奏でる新しい文化を創造するまち
-------------	----------------------

理由

川越の歴史に育まれた文化を継承しつつ、住民が主役である環境の中において、人づくり・まちづくり等のシステム（仕組み）を取り入れた新たな文化創造のまちづくりを目指す。

人とは：主役はあくまで住民であり、そこで交流する来訪者も含まれる。

対象は子供からお年寄りまで、『誰でも』を基本に、ユニバーサルデザインを基本概念とした基盤整備。

環境とは：人づくり（人材育成）と社会環境（地域コミュニティ）、交流環境等のシステム（仕組み）づくり、観光をはじめ産業支援の都市基盤支援、歴史的環境、都市環境・地域環境、住環境、自然環境、安心・安全の防災環境、公園・緑地整備や道路緑化、交通環境（渋滞対策・バリアフリー化等）、街並みな道路景観整備等あらゆる安心・安全・快適な生活環境の向上を指す。環境に変わるキー???

奏でるとは：楽器で音楽を奏するように、主役の人が生活するステージであらゆる環境と調和し、創り出す。コーディネート（調整・統合）

新しい文化とは：川越のもつ歴史・文化を継承しつつ、開発から成熟に向けたまちづくりを念頭に、住民主体（主役）のシステム（仕組み）構築による新しい文化創造を目指す。新旧の調和と融合

(2) かわごえの現状

良い所

歴史的文化遺産の保存と都市機能、市民活動が活発 等

× 悪い所

交通渋滞等施策、公園の絶対量不足、街並み景観 等

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

日常の交流空間として公園整備の充実

交通施策の推進（交通渋滞、道路網整備の見直し、歩行空間の安全性

確保、社会実験 等)

地域性に配慮した個性・特性を活かした都市基盤整備

歴史・文化と調和した都市景観の形成

まちづくりの住民参加システムの構築

歴史的資源・空間の保全活用（織物市場等の資源活用）

総論提言シート 「人口30万、ゆとりとうるおいのあるまちづくり(住みたくなり、住み続けたくなるようなまちづくり)」

(1)将来かわごえ像	人口30万、ゆとりとうるおいのあるまちづくり(住みたくなり、住み続けたくなるようなまちづくり)
------------	---

理由

少子高齢化時代を見据えて！

予測を遥かに超えた長寿高齢化と第二次ベビーブーマー以降の出生率の低下は、人口は増加するもの、それに伴って生産人口も増加するもの、としてきた市勢拡大戦略が既に破綻していることを示している。

財政問題

税収減少傾向：H9年度をピークに減少。人口が漸増しているのに市民税は減少しており、デフレ経済と高齢化の進展が窺える。この傾向は今後とも変わらない。

市債残高増加：H11年度から償還額が借入額を上回っていたが、H14年度から逆転し、残高は増加傾向にある。そのに現実を顧みない市勢拡大戦略が窺える。

財政指数悪化：H11年度以降に経常収支比率が上昇、H14年度には危険ラインの80%を超えた。右肩上がりの経済成長を前提とした財政破綻の仕組みが窺える。

これから

我が国における少子化の進展は一時的で特異なものではない。なぜなら、先進諸国はどこも少子化が問題視されており、特に成熟した文明都市を擁する国において顕著であることから、これを社会現象の必然として受け止めざるを得ないのである。

深刻なのは、この少子化の進展が他国に比して著しく早く、近い将来、人口増加が止まり減少に向かうと予測されていること。さらに、長寿高齢化においても我が国は抜きん出ており、これらを考え合わせると、大袈裟に言えば、

我が国は人類が未だ経験したことのない領域に踏み込みつつある、といえるのである。

したがって、川越市のこれからを考えると、

今までの成長神話に囚われた施策を追認しては破綻するのは必然である、との認識に基づいて根本から見直さなければならないのである。

すなわち、少子高齢化の進展は、これまでの経済や産業の仕組みを根底から揺るがし、既成の価値観に基づく施策の推進は不可能となる。だが、これを逆の視点で見れば、人は減り、空間は余り、車は減少する。したがって、宅地開発や道路整備、公共施設の需要が減退し、場合によっては撤収、解体へ

と向かう、ということになる。

そこで私の考える川越市の将来像は、

人口30万人を前提としたまちづくりへと方向転換することである。

つまり、人口減少を前向きに捉えた逆転の発想で、30万人を適正規模としたまちづくりを推進すれば、今までの成長一辺倒で無秩序な開発から、人が主役のゆたかでゆとりある都市環境の再生が可能になるのである。

(2)かわごえの現状

良い所

- ・一番街蔵造りの街並みを「伝統的建造物群保存地区」とし、さらに「旧川越織物市場」や「鏡山酒造」などを取得したことなど、伝統的建造物の保存、活用に積極的である。
- ・まちづくりや環境問題に市が積極的に取り組み、これを「蔵の会」や「かわごえ環境ネット」などのボランティア団体と協働する体制を確立していること。
- ・首都圏域で人口30万人を超える中核市でありながら、都市部近郊に広大な農地を擁し、川や沼、雑木林などが豊富、さらに山並みの眺望が開けているなど、他の中核市に類のない自然景観に恵まれていること。

×悪い所

- ・第二次総合計画後期基本計画が平成13年度より実施されたが、その時点で人口増の鈍化、少子高齢化の進展が顕在化していたにもかかわらず、平成17年度36万人などの想定を変えずに事業を推進。結果、市街地のマンション乱開発、郊外への住宅スプロール化による農林地減少と住環境悪化、車優先の基盤整備が逆に交通量増加と慢性渋滞、交通事故の増加などで歩行者の安全を脅かし、環境汚染を促進した。
- ・さらに、この現実から乖離した想定に基づく事業推進は、行財政のバランスを崩し財政を悪化させたが、抜本的対策を講じられないでいること。
- ・その根幹に、成長神話の呪縛から抜け出せず従前の価値観に拘泥する体質と組織体制があり、その変革など思いも付かないでいること。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

今、すべての人々に問われていること！それは成長神話の呪縛から解放され、置き忘れられてきた「人間と自然環境を優先したまちづくり」にこそ本来の価値があったことに気付き、その価値観に照らして今までの施策を見直すことである。すなわち、

成長から成熟へ

- ・ 拡大志向による新規開発を抑制し、既存都市環境の再整備へと施策を転換する。

敬愛から環境へ

- ・ 経済と効率優先の価値観に基づく施策を、自然と生活環境の充実へと転換する。

車優先から人優先へ

- ・ 車を優先した道路整備から、車を迂回させて人を優先する街路整備へと転換する。

観光からコミュニティへ

- ・ 観光振興の商環境重視から、コミュニティ環境再整備による市民生活重視へと転換する。

開発から保存、再生活用へ

- ・ スクラップ&ビルドの開発志向から、既存施設の保存、再生活用志向へと転換する。

行政から市民へ

- ・ 市民不在の行政主導態勢から、施策策定から実践まで市民主体態勢へと転換する。

以上が実現したとき、川越は「住みたくなり、住み続けたくなるまち」へと変貌する。

(1)将来かわごえ像	確かなビジョン すばやい実行 愛と情熱のまち
------------	------------------------

理由

- ・ 少子高齢化、人口減少という避けられない問題に直面しており箱モノより人を重視し、確かで実現可能な計画をたてる。
- ・ 短期中期の計画はすばやく実行を約束し中核市かわごえのイメージを高める。
- ・ 軸足を成熟に変え、平等、安全、安心をもとに福祉、医療、教育の充実を図る。
- ・ 若者の活力をダイナミックにサポートし、新しい産業をハード、ソフトの両面で支える。フリーターと呼ばれる若者をなくす。

(2)かわごえの現状

良い所

- ・ 市役所が率先して節電をしている。
- ・ 旧川越織物市場の有効活用。

×悪い所

計画路線（市内循環線）が40年以上たっても手付かずにいる。必要がないからであって白紙に戻す。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

未整備な駅及び周辺地域の開発又は整備（重要）

歴史的な町並み地区につながる中間地域の整備、商店街の活性化（重要）

都市計画道路の見直し（重要）